

事業報告用

2022年度事業報告書

特定非営利活動法人地域ケアネットワークゆいまある

1 事業の成果

コロナ禍や水光熱費高騰等、運営困難な中での事業継続、1千万円超の赤字決算となったが、地域で暮らす高齢・障害者約500人の在宅生活を守り、担い手約90人の雇用を維持、世代交代を進めた。

1) 持続可能なゆいまあるに向け

- ・SDGs；連携事業所を通じ、障害者への短時間業務を切り出したり、事業所内にリユースコーナーを設置等、できることを一つずつ形にしてきた。
- ・世代交代；設立23年目を迎え、世代交代に必要な業務の見直しや人員配置を行い新陳代謝を進めた。
- ・新会計ソフト導入し模索しながらの一年だった。今後、リアルタイムでの実績把握～事業分析が可能になることで職員の能動性、主体性向上につながり、NPO法人としての運営基盤が強化されていく。

2) 食事業の再建～自立に向け

- ・材料費、人件費、水光熱費、全ての経費が上がる中でも様々な工夫、改善により価格据え置きできたが一番の課題はコストではない、現場任せのマネジメント不全であると気づき、立て直しに着手。
- ・2月からボランティアで関わったベテランの集団調理経験者を2023年度に常勤採用の目途が立った。

3) 在宅支援強化のため

- ・情報機器有効活用；今年度も職員全体研修はWEB研修、国保連主催の「介護サービス事業者支援研修」の「介護サービスにおける認知症の利用者のケアについて」を各自視聴しレポート提出。認知症については介護職だけでなく、誰もが当事者として、また家族としての立場になって考える機会となった。

2 事業の実施に関する事項 (1) 特定非営利活動に係る事業のみ（事業費の総費用【184,997】千円）

定款に記載された事業名	事業内容	日時	場所	従事者人数	受益対象者の範囲	事業費(千円)
ホームヘルプ事業	介護保険、市の総合事業、障害、制度外等の身体介護、生活援助などの訪問介護。学生の研修受け	365日 7時～22時	東久留米市内 及び近隣の利用者宅	34人	高齢・障害 120人/月。 研修受入は近隣大学生等。	49,977
デイサービス事業	介護保険及び総合事業等の通所介護。食事、送迎、入浴、機能訓練、他	8時半～17時 月～金 (年未年始休)	ゆいまある 南沢ダイルーム	11人	高齢・障害 12人/日平均	26,881
居宅介護支援事業(ケアマネジメント)	介護給付及び、予防給付のケアプラン作成、サービス調整、モニタリング、認定調査など。福祉相	月～金 9時～17時半 緊急電話は 365日24時間	ゆいまある 南沢事務所～市内利用者宅	5人	利用者；介護 172人/月、 予防29人/月 相談は誰でも	31,010
食事サービス事業	市の生活支援及び、支えあいの配食や安否確認。高齢者会食会への食事提供等。	月～土の昼 火～金の夕	南沢事業所厨房でつくり、市内利用者宅へ	19人	高齢・障害 150人/月	33,266
地域の居場所づくりの為に交流事業	コミュニティカフェの運営	平日11時半～15時半	カフェ笠松	6人	住民・ボランティア40人程/月	2,552
小規模多機能型居宅介護事業	予防含む介護保険の認定者対象で24時間365日、馴染みの関係で行う地域密着包括ケア。研修受入。	365日 24時間	ゆいまある はちまん及び近隣の利用者宅	11人	登録人数 18人/月平均	41,311